

平成25年度 国立江田島青少年交流の家教育事業

「海は宝物! みんながひとつに!!」実施報告書

【趣 旨】 何らかの事情により一人親家庭となった子どもに、自分を見つめなおしたり、集団と関わったりする活動を通して、自分のよさや仲間の大切さに気付かせ、自分らしさを発揮できるようにする。

【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家

【共 催】 社会福祉法人 広島県同胞援護財団高松ハイツ

【期 日】 平成25年8月3日(日)～5日(火)

【会 場】 国立江田島青少年交流の家

【対 象】 母子生活支援施設で生活している子ども

【参加者数】 24人 小学校1年(1), 小学校2年(3), 小学校3年(1), 小学校4年(8)
小学校5年(2), 小学校6年(1) 引率者(8)

【企画・運営のポイント】

(1) 参加する子どもたちの課題を把握し、より効果的なプログラムを作成するために、母子生活支援施設職員と事前の連携を密に行う。

①事前に施設を訪問し、子どもたちの様子を実際に見学するとともに、施設職員から普段の子どもたちの様子や家庭状況を聞き取る。

②施設職員が当所を訪問し、下見・打ち合わせを行う。

③IKR(「生きる力」を測定するための評定用紙)実施の協力を依頼し、参加する子どもたちのもつ課題を把握し、その結果を共有する。

④事業に対する不安を軽くし、ねらいを把握してもらうために、参加する子どもと母親に事業の事前指導を行う。

(2) 自己肯定感を高めたり仲間への思いやりの気持ちを育てたりするために、野外炊事やカヌー体験、水晶山登山のような一人では達成できない体験をさせるプログラムを取り入れる。

(3) 生命の大切さを意識させ他者への思いやりの気持ちを育てるために、江田島乗馬クラブと連携し、馬などの生きものを世話させるプログラムを実施する。

(4) 母子のつながりを意識させ自己肯定感を高めるために、参加する子どもの母親に秘密の手紙を書いてもらい、子どもが読み親に返事を書くプログラムを取り入れる。

(5) 参加する子どもたちと年齢の近い法人ボランティアを複数配置し、子どもたちが他者とのコミュニケーションを活発に行ったり、安心して生活したりできるようにする。

【活動の実際】

【第1日目】 8月3日（土）

- 11:40～12:10 はじまりの式・オリエンテーション
- 12:10～12:30 シーツ受け取り
- 12:40～13:20 昼 食
- 13:30～14:20 休 憩
- 14:30～17:00 野外炊事
(17:00～17:30 タベのつどい 代表のみ参加)
- 17:00～18:40 片付け・掃除・点検
- 19:00～19:40 入 浴
- 19:50～21:00 ウミホテルの観察
- 21:00～21:30 1日のまとめ
- 21:30～ 就寝準備・就寝



【第2日目】 8月4日（日）

- 5:50～ 6:00 起床・準備
- 6:00～ 6:40 海辺の散策（荒代海岸）
- 6:55～ 7:20 朝のつどい
- 7:30～ 7:50 掃除（宿泊室、宿泊棟）
- 8:00～ 8:30 朝 食
- 9:00～11:00 馬とのふれあい（江田島乗馬クラブ）
- 12:00～13:00 昼 食
- 13:00～13:30 休 憩
- 13:30～16:00 カヌー・水泳・海辺の生き物観察
- 17:00～17:30 タベのつどい（代表挨拶）
- 17:30～18:30 夕 食
- 18:30～19:10 入 浴
- 19:30～20:30 キャンドルのつどい
- 20:30～21:30 お家の人からの手紙
- 21:30～ 就寝準備・就寝



【第3日目】 8月5日（月）

- 6:40～ 起床・準備
- 7:10～ 7:30 朝のつどい（旗係・代表挨拶）
- 7:50～ 8:20 朝 食
- 8:20～ 8:50 シーツ・枕カバー返却
- 9:00～10:30 水晶山登山
- 10:30～11:30 掃除・退所準備・退所点検
- 11:30～12:30 流しソーメン
- 12:30～13:30 後片付け
- 13:00～13:40 まとめ
事後アンケート（IKR 評定用紙）記入
- 13:40～14:00 閉講式

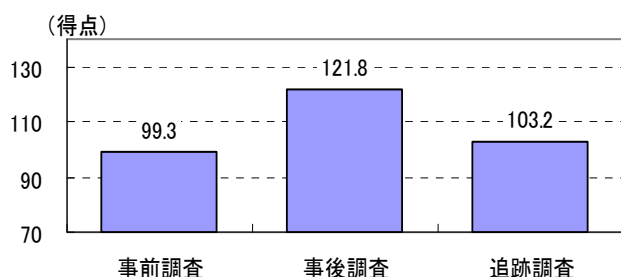


【成果】

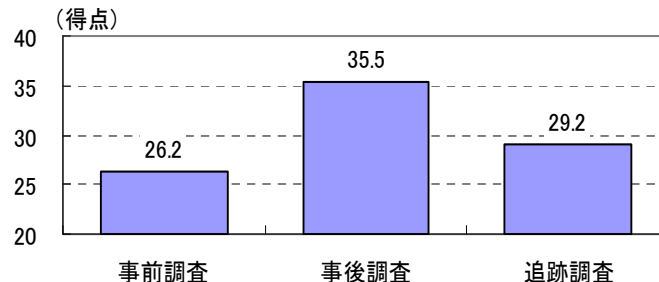
(1) IKR の結果から「生きる力」は、大きく向上した。(事前～事後 21.4 ポイントの向上) また、「徳育的能力」にもその向上に有意差が見られた。(事前～事後 9.3 ポイントの向上) 課題となっていた自己肯定感や思いやりについての項目も向上した。最終日の朝のつどいで、代表の子どもが「この研修で学んだことは、優しさです。」と発表したことから自己肯定感が高まったことが分かる。

『IKR 評定用紙 (簡易版)』参加者アンケート調査より

「生きる力」の変容



「徳育的能力」の変容



事前調査よりも追跡調査のポイントが上がった項目

項目	事前調査	事後調査 (終了直後)	追跡調査 (一ヵ月後)
いやなことはいやとはっきり言える	3.62	4.77	4.62
人のために何かをしてあげるのが好きだ	3.08	4.85	3.92
だれにでも話しかけることができる	3.54	4.62	3.92
花や風景などの美しいものに感動できる	2.38	3.92	2.69
多くの人に好かれている	3.08	3.62	3.31
ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	4.31	5.54	4.46
自分からすすんで何でもやる	3.31	3.85	4.00
自分勝手なわがままを言わない	2.77	4.15	3.62
自分で問題点や課題を見つけることができる	2.69	3.54	3.69
季節の変化を感じることができる	3.38	4.54	3.92
だれとでも仲よくできる	3.62	4.62	3.77
その場にふさわしい行動ができる	3.00	4.08	3.54
洗濯機がなくても、手で洗濯できる	3.92	4.15	4.15
前向きに、物事を考えられる	3.31	4.08	3.54
お金やモノのむだ使いをしない	3.23	3.85	4.08

(2) 水晶山登山では、みんなで励まし合いながら昨年登れなかった子どもも含めて全員山頂まで登ることができ、「今年は、私も登ることができた。」という感想が聞かれ、みんなで達成感を味わった。

(3) 馬とのふれあいでは、大きな馬を見て、初めは「馬が怖い。」と言っていた子どもから「馬に乗ったらものすごくでかくてびっくりしたけど、ものすごく楽しかった。」という感想が聞かれた。「馬は、優しい目をしている。」と言いながら馬の体に優しくブラシをかけていた。猛暑で馬小屋の中は、強い独特のおいがしていたが、「馬小屋の掃除をしたとき、乗馬クラブの人からほめてもらってうれしかった。」とみんな一生懸命掃除をし、「(小屋が)きれいになっていたら馬が喜ぶんだって。」と笑顔を見せた。このように馬の世話をとおして思いやりの気持ちが感じられる姿を見ることができた。

(4) 母親からの手紙を読む場面では、全員静かに手紙に見入り、泣きながら読んでいる子ども

もいた。母親が最後の行まで手紙を書いてくれていたので、自分も最後の行まで書く子どももいた。また、施設に戻ってから「お盆に多くの家庭が実家に帰った。」という報告があり、母子のつながりが深まったのではないかとと思われる。

- (5) 子どもたちが、法人ボランティアと仲良くなり、見送りのときは、お互いにいつまでも手を振り合って別れを惜しんだ。施設職員も「ボランティアがいてくれてとても助かった。」と評価した。
- (6) 子どもたちはこの事業をとおして、閉講式ではきちんと並んで礼をしたり、送りのバスを降りる時、すすんでお礼を言ったりするようになった。事業後の子どもたちの様子を施設職員に聞いたところ「話を落ち着いて聞くようになった。」「夏休みの課題を意欲的にこなした。」など規律が身についたと報告があった。
- (7) 施設職員に指導補助をしてもらったことで、子どもたちへの指導の仕方や野外活動の運営の仕方を学んでもらった結果、来年度から高松ハイツ独自でこのような野外活動を企画、実施する予定である。

【今後の課題】

- IKRの結果、事後調査では全ての項目のポイントが上昇したが、追跡調査では、事前調査の結果とあまり変化がない項目もあった。(28項目中12項目)このことから施設と連携して事後指導を工夫していく。
- 課題を改善するとともに事業の有効性の検証も含めて別の母子支援施設でこの事業を実施する。
- 実施時期や実施するプログラムを新しく提案することも考えられる。